

自分の住所・氏名を記入

			—				
--	--	--	---	--	--	--	--

長田局

料金後納
郵便

様

兵庫県立青雲高等学校 兵庫県神戸市長田区池田谷町 2 丁目 5
電話 078-641-4200

折り目①

本校 2 階の提出箱に出すとき

1. 太線内を記入
2. 全てのプリントを重ね、ホッチキスで指定の 1 カ所をとめる。
3. ①②の折り目の線を順番に折る。

②

郵便で出すとき(上の 1,2 に続けて作業)

3. 青雲高校のあて名が見えるように重ねる。
4. ホッチキスで指定の 1 カ所をとめる。
5. 15 円分の切手をはる。(1 カ所)

その他の注意

本校が休みの日やあいている日でも夕方 5 時を過ぎて届いたとき→次にあく日の受付になります。

① 週火曜日と土曜日は本校は休みです。

② 祭日が火曜日やスクーリング、学校行事と重なったときは、他の日が振替休日になります。

折り目②

6 5 3 — 0 8 2 1

神戸市長田区池田谷町 2 丁目 5

兵庫県立青雲高等学校
(電話 078-641-4200)15円分
の切手を
はる

地理総合 (電子放送視聴)

担当者

先生

ホッチキス(郵送のときだけ)

地理総合		電子放送視聴	年次一組	登録番号	評 価
学 習 内 容	第 9 回 歴史は暮らしにどう影響している？ ～歴史と生活～		—		合格・不合格
			氏名		

NHK高校講座 地理総合「第 9 回 歴史は暮らしにどう影響している？ ～歴史と生活～」のVTRを視聴して、以下の課題にすべて取り組んで下さい。

課題1 以下はVTRの内容をまとめたものである。VTRを見ながら()に適語を記入しなさい。

ラテンアメリカ、すなわちスペイン人やポルトガル人などが植民地化を進めた地域では、各地で先住民による高度な文明が栄えていました。()は、現在のペルーやボリビアなどを支配したインカ帝国によって建設された都市の遺跡です。標高 2000mを超える山に突如出現する石造りの街並みは、インカ帝国が高い土木技術を有していたことを物語っています。

しかし、()時代、1492 年に()がカリブ海に浮かぶ西インド諸島に到達しました。その後、スペイン、ポルトガルによる入植が進んでいきました。このときに、「大土地所有制」という制度が採用されました。ブラジルの場合は、ポルトガルの貴族などが広大な土地を所有して、農業生産とそれに関連する製造業を営営しました。サトウキビを栽培して当時ヨーロッパで人気となっていた砂糖をつくり、ヨーロッパに送ることで、莫大な利益を得ることができたのです。大土地所有制では、ポルトガルからやってきた農園管理人の下、先住民を労働力として使役しました。過酷な労働やヨーロッパ人が持ち込んだ感染症によって先住民人口が大きく減少すると、()から奴隷を連れてきて働かせました。こうして、ブラジルでは、富裕層と貧困層の格差が激しい階層社会が形成されていきました。その格差は、今もブラジル社会に大きな影響を及ぼしています。たとえば、都市に形成されたスラム()には、農業の機械化などによって職を失った労働者が移り住み、治安や衛生などの面から問題とされています。

ブラジルといえば、サンバのリズムに合わせて踊る()が有名です。サンバを生み出したのは、アフリカから連れてこられた奴隷でした。彼らは、アフリカの様々な地域からやってきたため、信じる神が異なっていました。そこで皆が一緒に信仰できる「カンドンブレ」という宗教を生み出しました。カンドンブレを信仰する女性は、次のように語ります。「私たちアフリカ系ブラジル人は、みんな三代以上前の家族がわかりません。だから、カンドンブレの信仰では、家族を失ったもの同士、もう一度新しい家族を作っているのです」カンドンブレの儀式では、打楽器が打ち鳴らす二拍子のリズムが、強弱の変化をつけて繰り返されます。これが、後にブラジルを代表する音楽、サンバになったとされています。ブラジルでは、サトウキビのプランテーションが大々的に行われ、その労働力としてアフリカから奴隷が連れてこられた事が、現在の人種や民族の多様さに反映されていることがわかりました。

では、アルゼンチンはどうでしょうか。

ヨーロッパ系の人がほとんどを占めるということは、プランテーションが行われなかったということでしょうか？井桁さんは、農業は気候と関係が深いということから、（ ）の気候区分図を調べてみました。ブラジルは、国土の大部分が熱帯であることがわかります。したがって、十分な日射量と豊富な水量を必要とするサトウキビの栽培に向いています。それに対しアルゼンチンの多くは乾燥帯であり、サトウキビの栽培に向かないことがわかります。アルゼンチンでは、どのような農業が行われてきたのでしょうか？

アルゼンチンの首都（ ）では、屋外で、地元の人たちが昼間から豪快にステーキを食べています。アルゼンチンは、1人当たりの年間の牛肉消費量が60kgという、牛肉大国です。ブエノスアイレスから郊外へ車を走らせると、すぐに車窓の風景は草原に変わります。（ ）と呼ばれる肥沃な土壌の草原地帯で、その広さは実に直径およそ1200kmもあります。北海道から東京あたりまでが、すっぽり入ってしまう広さです。この広い草原を使った牛や羊の放牧、また小麦の栽培が、アルゼンチンの主要な農業となっています。アルゼンチンは、ブラジルとは違ってプランテーションが成立しにくかったため、大勢の奴隷を労働力とする必要がなかったのです。放牧の仕事に就いたのは、主に（ ）からの移民です。貧しさから抜け出すために、新天地を求めた人たちです。スペインだけでなく、イタリアなどからも大規模な移住が行われたといえます。こうした移民のなかには、都市に仕事を求める人々もいて、ブエノスアイレスの港での荷揚げ作業などに従事しました。肉体労働にいそむ日々のなかで、フラストレーションのはけ口として生まれたのが、アルゼンチン・タンゴです。

もともとヨーロッパのイベリア半島で生まれた音楽が、アルゼンチンにもたらされたのです。そして、世界各地からやってくる船乗りたちが持ち込んだ音楽やリズムも影響しているといえます。「バンドネオン」のきれいなシャープな音色に合わせて、アルゼンチンでは老若男女がこのダンスに親しんでいます。

さらに森田先生によると、そうした状況の中で貧困から抜け出すための道のひとつが、プロサッカー選手になることだといえます。たとえば、アルゼンチンの英雄（ ）は、母方の祖母がイタリア系で、ブエノスアイレス郊外のスラム出身でした。

また、「ラテンアメリカ」というと、南アメリカ大陸の国々を連想しがちではないでしょうか。ところが、カリブ海に浮かぶ西インド諸島にも同じような理由で、多くのアフリカ系の住民がいます。イスパニョーラ島は、（ ）が上陸した島です。

この島の西側にある（ ）共和国は、アフリカ系の人々による最初の独立国です。ここを植民地としていたのは（ ）で、現在の公用語は、ハイチ・クレオール語と（ ）です。

サッカーのフランス代表にも、アフリカ系の選手が多いという。アフリカの国との二重国籍の選手もいます。これもやはり、歴史が関係している。

こうした理由から、同じ民族集団が複数の国に分かれたり、あるいは異なる民族集団がひとつの国に含まれたりということが起こりました。

[illegible]